

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) **公開特許公報 (A)**

(11)特許出願公開番号

**特開平7-50969**

(43)公開日 平成7年(1995)2月28日

(51)Int.Cl.<sup>6</sup>

A 01 K 97/18

識別記号

序内整理番号

9227-2B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平5-200830

(22)出願日

平成5年(1993)8月12日

(71)出願人 593152683

東山 興治

大阪府大阪市住之江区安立2丁目5番21号

(72)発明者 東山 興治

大阪市住之江区安立2丁目5番21号

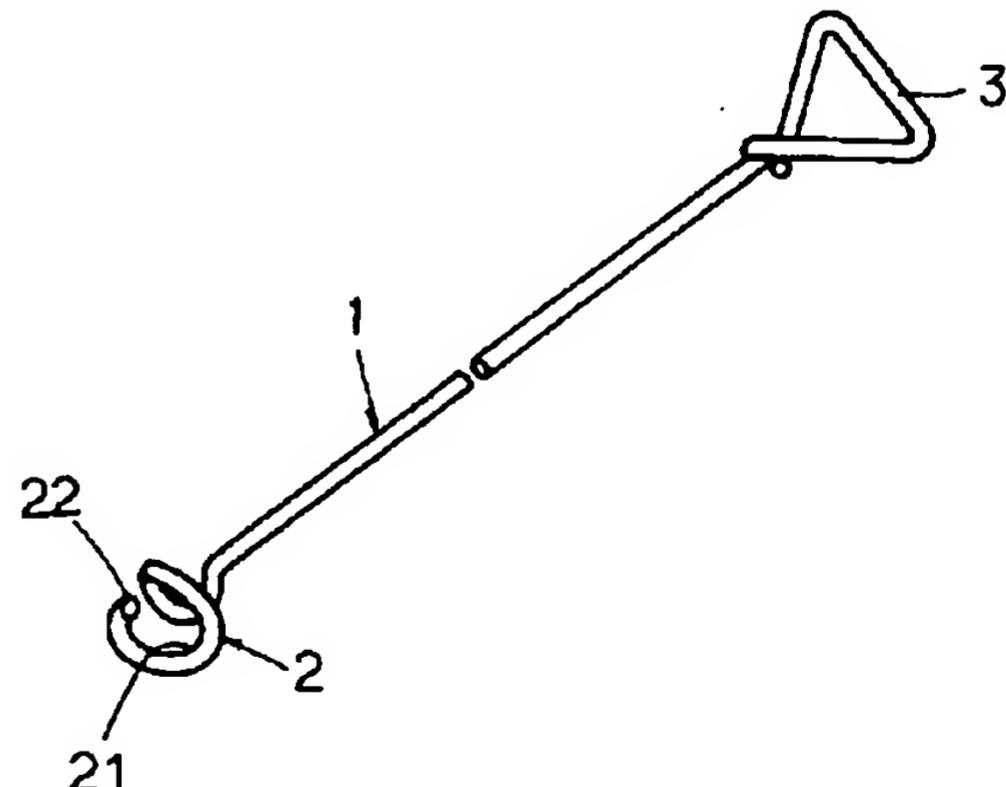
(74)代理人 弁理士 津田 直久 (外1名)

(54)【発明の名称】 針外し具

(57)【要約】

【目的】 釣針Hが釣魚Fに飲込んでて口内深くに引っ掛かったとき、この口内に引っ掛けた釣針Hを押動するだけの簡単な操作で迅速に取外すことができる針外し具を提供する。

【構成】 ロッド状本体1の先端部に、釣針Hの針杆H1より径大なコイル内径部21をもつコイル状の針押体2を設け、この針押体2に釣針Hに結び止めた釣糸しをコイル内径部21に案内する導入部22を設けた。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 釣魚が飲込んだ釣針を取外す針外し具であって、ロッド状本体(1)の先端部に、前記釣針の針杆より径大としたコイル状の針押体(2)を設け、この針押体(2)に、前記釣針に結び止めた釣糸を針押体(2)のコイル内径部(21)に案内する導入部(22)を設けていることを特徴とする針外し具。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、魚釣り時に使用され、釣針が釣魚に飲込まれて口内深くに引っ掛けたようなとき、この口内に引っ掛けた釣針を取外すために用いる針外し具に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 従来、この種針外し具は、例えば図3で示したように、ロッド状本体Aの先端部に扁平な平板部A1を一体状に設けて、この平板部A1に円形孔状の釣針係止部A2を形成すると共に、前記平板部A1の一側に、前記係止部A2を外部に開放し、この係止部A2に前記釣針に結び止められた釣糸を導入させるための溝部A3を形成している。

【0003】 そして、魚釣時に釣針が魚の唇部など取外し易い箇所に引っ掛けた場合は、この釣針を手指で取外すのであるが、特に釣魚が釣針を飲込んで口内深くに引っ掛けたまま手指で取外すことが困難なときには、前記針外し具を使用して前記釣針の取外しを行うのである。つまり、釣魚の口内に引っ掛けた釣針から外方に延びる釣糸を、前記平板部A2の溝部A3から係止部A2内に導入させ、該係止部A2に導入された釣糸に沿って前記ロッド状本体Aを釣魚の口内へと挿入させながら、前記係止部A2を釣針の針杆に導入係合させ、この後前記釣魚を手で把持した状態で、前記本体Aを釣針の引っ掛けたまま方向つまり、鉤状に曲がった針先方向に対し逆方向に回動させることにより、該釣針を前記係止部A2で捩るようにして釣魚の口内部から引き抜いて取外すのである。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】 ところが、以上の針外し具によれば、特に釣魚の口内深くに引っ掛けた釣針を取外すとき、前記ロッド状本体Aを釣針の引っ掛けたまま方向に対し逆方向に回動させる必要があるが、前記釣針は釣魚の口内深くに位置され、この釣針の引っ掛けたまま方向を外部から確認することが困難であるため、ややもすると前記本体Aを釣針の引っ掛けたまま方向と同方向に回動させたりすることがあって、前記釣針を簡単には取外すことができなかつたのである。しかも、前記釣針の取外し時に、前記本体Aを釣針の引っ掛けたまま方向と同方向に回動させたりすると、前記釣針を釣魚の口内部にさらに深く突き刺したり、また、前記本体Aの平板部A1で釣魚の口内を不必要に搔き混ぜたりして釣魚を傷つけ、こ

の釣魚を元気な状態でリリースすることができないのである。

【0005】 その上、以上の針外し具では、前記平板部A1の一側に前記係止部A2を外部に開放する溝部A3が形成されているため、前記係止部A2に釣糸を導入させ、この釣糸に沿って前記本体Aを釣魚の口内へと挿入させながら、前記係止部A2を釣針に係合させると、その途中で前記釣糸が係止部A2から溝部A3を経て外部へと抜け出し、この係止部A2を釣針に導入係合させることができなかつたり、また、前記係止部A2を釣針に係合させた状態で前記本体Aを回動させるとき、前記釣針が係止部A2から溝部A3を経て外部に抜け出したりすることもあって、前記釣針の取外しを一回の操作で確実に行うことは困難であった。

【0006】 本発明の目的は、釣針が釣魚に飲込まれて特に口内深くに引っ掛けたようなとき、この口内に引っ掛けた釣針を押動するだけの簡単な操作で迅速に取外すことができる針外し具を提供することにある。

## 【0007】

【課題を解決するための手段】 以上の目的を達成するために、本発明の針外し具は、ロッド状本体1の先端部に、釣針の針杆より径大としたコイル状の針押体2を設け、この針押体2に、前記釣針に結び止めた釣糸を針押体2のコイル内径部21に案内する導入部22を設けたのである。

## 【0008】

【作用】 以上の針外し具を使用して、釣魚の例え口内深くに引っ掛けた釣針Hを取外すときには図2に示したように、先ず、この釣針Hの基杆部H1に結び止められた釣糸Lを、前記ロッド状本体1に設けた針押体2の導入部22からコイル内径部21へと導入させ、該内径部21を釣糸Lに沿って釣魚Fの口内に挿入させながら、この内径部22を口内に引っ掛けた釣針Hへと案内してこの釣針の基杆部H1に挿嵌させ、この後前記釣魚を手で把持した状態で前記本体1を釣魚の口内内方側へと押動させて、この押動により、前記コイル内径部22を前記釣針の曲杆部H2に容易に進入させられ、この進入により前記曲杆部H2に係止されるのであり、この状態で前記針押体2を更に押動することにより、針先部H3の引掛けを外せるのである。従って、釣魚が飲み込んで引掛けている場合でも、この釣針を針押体2を押動させるだけの簡単な操作で迅速に取外すことができる。また、以上のように、前記釣針を取外す時、前記内径部21を釣魚の口内に引っ掛けた釣針に挿嵌させるのであるが、このとき、前記針押体2をコイル状に形成して、この針押体2の内径部21に前記釣糸を導入し、該釣糸で案内しながら前記内径部21を釣針Hの基杆部H1に挿嵌するようにしているため、この内径部21が途中で釣糸から外れたりすることなく、しかもこの内径部21を釣針Hの基杆部H1から曲杆部H2

に一回の操作で容易に、また、確実に挿嵌させることができ、しかも、前記内径部21を釣針Hの曲杆部H2に係止させた後、前記本体1を釣魚の口内内方側に押動させるだけで、この釣針Hを釣魚の口内部から取外すことができるから、従来のように、前記釣針を誤って釣魚の口内部にさらに深く突き刺したり、該釣魚の口内を必要に掻き混ぜたりすることなく、一回の操作で釣針を確実に取外すことができ、従って、釣魚を元気な状態でリリースすることができる。

【0009】

【実施例】図1、図2に示した針外し具は、太径針金から成るロッド状本体1の先端部に、該本体1の素材を左方向の螺旋状に2回巻回して、釣針Hの針杆より径大としたコイル内径部21をもつ針押体2を一体に形成すると共に、この針押体2におけるコイル巻端部と該端部に隣接するコイル部との間に、前記針杆H1の基部側に結び止めた釣糸Lを前記コイル内径部21に案内導入させるための導入部22を形成したものである。

【0010】また、図1の実施例では、前記本体1の長さ方向他端側には、該本体1を回動操作させたり押動操作させたりするための操作部3を一体に設けている。

【0011】そして、前記釣針Hが釣魚Fにおける口部F1の内方深くに引っ掛けたときには、先ず、前記釣針Hに結び止められて前記釣魚Fの口部F1から外方に延びる釣糸Lに、前記針押体2の導入部22を臨ませ、斯かる状態で前記操作部3を介して前記本体1を回転させることにより、前記釣糸Lを前記導入部22からコイル内径部21に導入させる。

【0012】次に、前記針押体2の内径部21を釣糸Lに沿って前記釣魚Fの口部F1内に挿入させながら、図2の実線で示すように、前記内径部21を前記口部F1の内方に引っ掛けた釣針Hの基杆部H1へと案内して挿嵌させ、この後前記釣魚Fを手で把持した状態で前記本体1を口部F1の内方側に押動させるのであって、この押動により、図2の鎖線で示したように、前記内径部22が釣針Hの曲杆部H2に進入し、この曲杆部H2に係止されるのであり、この状態で前記針押体2を更に図2のX方向に押動することにより、この釣針Hにおける針先部H3の引掛けを外せるのであり、この状態で前記針押体2を釣針と共に釣魚Fの口内部から引き抜くことにより取外すことができるのである。従って、釣魚が飲込んで口中深く引掛けている釣針を、一回の操作で簡単かつ、確実に外すことができるのである。

【0013】以上のように釣針Hを取外す時、前記内径部21を口部F1の内方に引っ掛けた釣針Hに挿嵌させるのであるが、このとき、前記針押体2をコイル状に形成し、この内径部21に前記釣糸Lを導入し、該釣糸Lで案内しながら前記内径部21を釣針Hの基杆部H1に挿嵌するようにしているから、この内径部21が途中

で釣糸Lから外れたりすることなく、この内径部21を釣針Hの基杆部H1から曲杆部H2に一回の操作で容易に、また確実に挿嵌させることができるのであるから、従来のように、前記釣針Hを誤って釣魚Fの口内部にさらに深く突き刺したり、該釣魚Fの口内を必要に掻き混ぜたりすることなく、一回の操作で釣針Hを確実に取外すことができ、従って、釣魚Fを元気な状態でリリースすることができる。

【0014】以上説明した実施例は前記ロッド本体1を太径針金により形成し、針押体2の押動操作時、多少撓むようにし、その弾性反力を前記釣針Hにおける針先部H3の引掛けを外すようにしたが、剛性のある棒材を用いてもよい。また、前記針押体2はロッド本体1の素材を用いて一体に形成したが、別部材として一体に結合してもよい。更に前記針押体2は2巻としたが、それ以上でもよいのであって、1巻を越える巻数であって、曲杆部H2に係止して釣針Hを押動できればその巻数は特に限定されない。また、螺旋状に巻回して形成する前記針押体2の螺旋方向は左巻きでもよいし、また、右巻きでもよい。

【0015】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の針外し具は、ロッド状本体1の先端部に、釣針の針杆より径大としたコイル状の針押体2を設け、この針押体2に、前記釣針に結び止めた釣糸を針押体2のコイル内径部21に案内する導入部22を設けたから、特に前記釣針が釣魚に飲込まれて口内深くに引っ掛けたような場合でも、この口内に引っ掛けた釣針を針押体2を押動させるだけの簡単な操作で、迅速に取外すことができるのであり、従って、釣魚を傷つけたりすることなく、この釣魚を元気な状態でリリースすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる針外し具の一部省略した斜視図である。

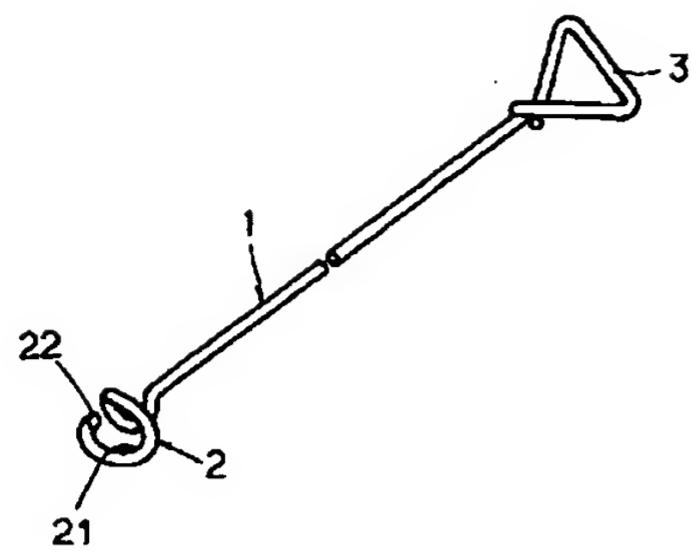
【図2】同針外し具の作用を説明する側面図である。

【図3】従来の針外し具を示す側面図である。

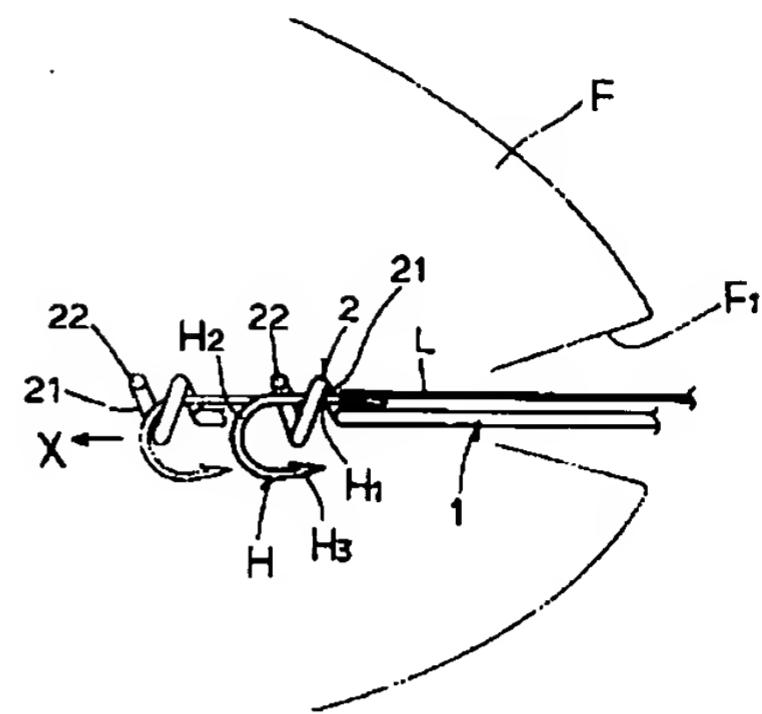
【符号の説明】

|    |        |
|----|--------|
| 1  | ロッド状本体 |
| 2  | 針押体    |
| 21 | コイル内径部 |
| 22 | 導入部    |
| F  | 釣魚     |
| H  | 釣針     |
| H1 | 針杆     |
| L  | 釣糸     |

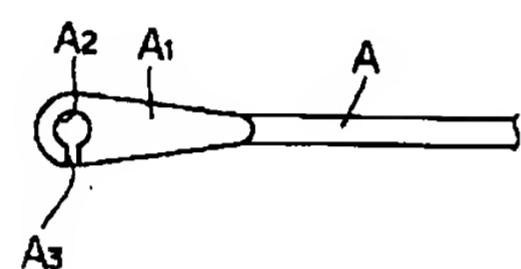
【図1】



【図2】



【図3】



PAT-NO: JP407050969A  
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 07050969 A  
TITLE: DISGORGING TOOL  
PUBN-DATE: February 28, 1995

INVENTOR-INFORMATION:

NAME  
HIGASHIYAMA, KOJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

|                  |         |
|------------------|---------|
| NAME             | COUNTRY |
| HIGASHIYAMA KOJI | N/A     |

APPL-NO: JP05200830

APPL-DATE: August 12, 1993

INT-CL (IPC): A01K097/18

ABSTRACT:

PURPOSE: To provide a disgorging tool capable of quickly disgorging a fishing hook engulfed by a fish and hooked deep in the mouth simply by pushing the hook hooked in the mouth.

CONSTITUTION: This disgorging tool is provided with a rod-shaped main body 1, a coil-shaped hook-pushing member 2 formed at the tip end of the main body and having an inner diameter larger than the diameter of the stem of the fishing hook and an introducing part 22 to guide a fishing line fastened to the fishing hook to the inside 21 of the coil of the hook-pushing member 2.

COPYRIGHT: (C) 1995, JPO